

蓄膿症などの原因にも



【問い】私はもともと蓄膿ちくのうがあり、長い間耳鼻科に通っています。テレビで歯が原因で蓄膿症になることがあると言っていました。どういうことか教えてください。(南島原市、53歳男性)

【答え】いわゆる蓄膿とは、副鼻腔と呼ばれる空間に膿がたまった状態です。副鼻腔は、左右の頬、両目の間、額の下の骨の中にあります。粘膜で覆われた空洞で、普段は空気があり空っぽの状態です、それぞれが鼻の中とつながっています。

副鼻腔炎になると、鼻が詰まって息がしにくい、どろっとした黄色や黄緑色の鼻水が出る、口や鼻から嫌な臭いがする、頭が重い・痛い、集中力がなくなるなどの症状が現れます。副鼻腔炎は、一般的に鼻風邪と呼ばれる急性鼻炎が長引いた後に起こります。

副鼻腔の一つである上顎洞じょうごうどう(左右の頬の部分)は上顎の奥歯に非常に近く、重度のむし歯や歯周病で歯根に感染が起こると、感染が上顎洞まで及ぶことがあります。この状態を歯が

原因の上顎洞炎という意味で、「歯性上顎洞炎」と呼びます。日本人は上顎の骨が薄いいため、その傾向が強いといわれています。

歯性上顎洞炎になると、歯の痛み以外に、頬、目の下、頭など広い範囲に痛みや腫れが出る場合があります。診断にはむし歯や歯周病の検査はもちろん、エックス線検査で上顎洞内に炎症がないか、また炎症があれば歯と関連があるかを調べるのが重要です。

アレルギーや上顎洞内粘液嚢胞なまこなどの病気との鑑別のため、3次元CT(コンピュータ断層撮影)が有効です。治療は耳鼻科と連携し、抗生薬を使いながら原因の歯を治療します。感染が広範囲に及ぶ場合は抜歯が必要になることもあります。

歯性上顎洞炎を予防するには、かかりつけ歯科医を持ち、定期的なメンテナンスで口の中を清潔に保つことです。もし気になる症状があれば、かかりつけ歯科医にご相談ください。

歯性上顎洞炎

回答者

古瀬雄二郎ふるせゆうじろう

南島原市有家町
有家ふるせ歯科
口腔クリニック院長



質問をどうぞ

歯と口の健康に関する質問を受け付けます。歯科医師会の先生方が回答します(直接本人に回答はしません)。症状などを分かりやすくまとめ、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、〒852-8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「お口の相談室」係に送ってください。歯科医師会のホームページは「8020ながさき」で検索できますので参考にしてください。